

【まちづくり:選ばれる観光 MICE 都市を目指して】

街の資源を活かし、地域の事業者との連携を基盤とするさまざまな事業活動を通じて地域の魅力や活力を高め、都市ブランドを形成します。

また、来訪者の消費活動や副次的な波及効果を拡充すると共に、中長期的には、教育や環境等多くの社会課題を抱える領域で、観光 MICE 視点での事業活動を展開します。

1 横浜の観光課題解決につながる事業連携の推進

多様な事業者の、横浜の観光課題解決につながる企画提案や意見を引き出す仕組みを構築し、《新たな民間連携事業》を創出します。

より自由に、財団に対する事業提案をする機会を提供すると共に、対応する市場状況を反映させながら、事業化に向けた企画アドバイス、事業規模増幅のために必要となる事業者同士のビジネスマッチング、国費活用を含めた事業実現のための財源確保の調整など、多岐に亘るサポートを展開し、事業者と共に、未来の横浜につながる事業の創案や実証実験等に取り組みます。

- ・事業者との意見交換や情報収集機会の運営 [通年]
- ・事業提案への対応
- ・企画創案に意欲的な事業者同士のマッチング機会創出
- ・DMO が活用可能な国費事業への提案調整 など

2 強み資源を活用したにぎわい創出

(1) 水際線の魅力の最大化

横浜の街を他都市と差別化する、水辺と人が近づける、親水性の高い水際線を活用し、にぎわい創出につなげます。

ウォーキングやランニング、ヨガや太極拳、SUP など個人のニーズに合わせて楽しめるリクリエーションなど、空間だけでなく時間の使い方の提案により、横浜らしさを体験できるコンテンツとして造成します。

また、民間事業者主催の『BAY WALK MARKET YOKOHAMA』等との連携を強化します。

(2) 開港の地の歴史を活かした高付加価値の創出

開港の地ならではの歴史、文化を継承する施設等を舞台に、高い付加価値を提供できるコンテンツによる商品を販売します。

また、個人のニーズに個別に対応する旅行プラン等の企画事業者(トラベルデザイナー)等と連携し、市場や顧客のニーズに合わせたコンテンツ造成に努めます。

- ・三溪園、山手西洋館、横浜開港資料館等の商品販売支援

(3) 「Music City Yokohama」の実現に向けた取組

9 月開業予定の K アリーナのほか、ぴあアリーナ MM、ライブハウスなど複数のホール系施設が集積するみなとみらい 21 地区を中心に、コンサート等音楽イベントの来訪者による消費拡大のため、滞在時間延長、来訪時の市内他地区の施設等の利用促進を図ります。

また、市内事業者向けに、イベント開催実態の把握と情報発信を行い、コンサート等のエンターテイメントを活用した、事業者間の協働事業の創出につなげます。

(4) 横浜《食の多様性》の認知度アップ

来訪者の獲得に向けた市内観光施設の割引等の観光キャンペーンを実施し常に新しい発見があり何度でも訪れたいくなる横浜の魅力を発信するとともに、横浜への来訪を促進します。

また、横浜にある食のバラエティを体験してもらうための仕掛けを講じ、開港の歴史とも連動する、各国料理レストランなど、来訪してこそ体験できる街のコンテンツ、街の魅力資源として発信します。

(5) 横浜の夜の魅力資源の活用

ナイトタイムエコノミーの活性化・定着を目指し、夜間時間帯に開催されるイベント等と連携し、夜景や花火、イルミネーションなどを楽しめる取り組みにより集客増加を目指します。

《連携対象イベント》

- ・横浜スパークリングトワイライト 2023
- ・ヨルノヨ 2023
- ・春節 2024

[令和6年2月10日]

(6) スポーツの魅力を活かした交流創出

市内所在のプロスポーツチームの吸引力・影響力を活かし、ファン以外の人をも惹きつける取組として、スポーツと地域の交流づくりに注力します。

また、ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会などグローバルで注目を集める競技大会の情報伝播力を活用し、最新の横浜を世界に伝えます。

《プロスポーツチーム》

- | | | |
|--------------|--------------|----------|
| ・横浜 DeNA | ・横浜 F・マリノス | ・横浜 FC |
| ・横浜キャノンイーグルス | ・横浜ビー・コルセアーズ | ・Y.S.C.C |
| ・横浜エクセレンス | ・横浜 GRITS | |

《ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会》

[5月13日～14日]

(7) 国際園芸博覧会/GREEN×EXPO 開催に向けた気運醸成

2027年に開催される国際園芸博覧会の認知度向上のため、主催者との定期的な情報交換の機会を設けます。

また、回復が見込まれるインバウンドの、特に東南アジア市場の花好きな方々の再来訪を促すため、最新の関連情報を継続的に発信します。

3 MICE 関連事業者との共創

(1) YOKOHAMA MICE SHOWCASE の企画運営

[令和6年2月予定]

国内外の MICE 主催者等を対象に「MICE 都市横浜」の最新の魅力を体感できる機会を提供します。また、市内事業者のビジネスチャンスの拡大のため、商談会を併催します。

- ・新しいコンテンツやサービスを体験できるモニターツアーやプレゼンテーションの実施
- ・ユニークメニューの提案

(2) MICE におけるビジネスマッチング

市内で開催される国際会議の機会を活用し、市内事業者のビジネスチャンスを創出するため、会議に併設される展示会に「横浜ブース(仮称)」を設置し、事業者と連携して共同出展します。

- ・IFAC World Congress2023(第 22 回国際自動制御連盟世界大会 於:パシフィコ横浜)
[7月9日~14日]

(3) MICE 受入環境の充実

MICE の経済波及効果等の最大化を図るため、市内の様々な資源を活かしながら、現地参加者数の増加と市内回遊促進につながる取組を強化します。

- ・サステナビリティなどの最新トレンドに合わせた、主催者対象のプログラムの開発
- ・横浜への来訪意欲を喚起するため、参加者対象の体験プログラムやツアーの充実
- ・参加者の市内周遊性を高めるため、アフターコンベンション向けの飲食店情報の発信

(4) 横浜コンベンション開催支援助成金(仮称)

コンベンション主催者支援及び市内中小企業のビジネスチャンスの創出、受注増加を促進するため、横浜で開催されるコンベンションを対象に新しい助成金制度を運営します。開催にかかる経費のうち、市内調達にかかる経費の一部を助成します。

【ひとづくり:地域づくり産業の担い手を目指して】

来訪者へ質の高い感動や唯一無二の体験を提供できる人材を育成します。

また、市民の観光 MICE への理解を深め、都市・横浜に関わる人々のシビックプライドを醸成するなど、地域の観光 MICE 産業を担う中核人材の育成・支援を行います。

1 横浜観光 MICE のプロフェッショナル人材の育成

(1) 観光 MICE 人材育成プログラム

[上半期]

ア MICE ビジネス実践講座

最新テクノロジーやサステナビリティ等実務に即したテーマを取り上げ、主催者や会議運営会社のニーズに合った、提案能力のある事業者の育成を目指します。開講3年目となる今年度は上級レベルの内容を展開し、国際会議主催者に対応できる人材を育成するとともに、講座参加者同士のネットワーキングを図ります。

イ 観光人材養成講座

横浜の観光を支える様々な事業者の次代を担う中堅・若手職員の育成を目的に人材養成講座を実施します。今後の業界発展に必須となる取組み等についての最新のトレンドを学ぶとともに市内内外の先進的な実践事例等を学ぶ場を提供することで、横浜の次代の観光業界を支える人材を育成します。

(2) 産官学連携による観光人材の育成

神奈川大学、市内民間事業者との産官学連携事業《KU プラットフォーム》に参画し、データドリブンの仕組みを活用した横浜観光の課題の検証や解決策を考案します。

また、横浜に愛着を持つ人々の行動や思考を分析し、「横浜ファン」に訴求し得るコンテンツの開発に取り組みます。

(3) ユニバーサルツーリズム(UT)の推進

来訪者の誰もが安心して横浜での滞在を楽しめる環境整備を目指し、関連事業者向け UT 推進セミナーを実施し、UT を推進する人材の創出に取り組みます。

2 市民の観光 MICE の理解促進

(1) 横浜観光応援団による発信

[通年]

財団による情報発信に限らず、横浜に関わる人等による「横浜観光応援団」の活動を通して、「人」の情報発信力を活かした新しいプロモーションを推進します。「横浜好き」の輪を広げることを目的に、横浜の魅力発信に取り組みます。

(2) 来訪者と市民との交流機会創出

MICE 主催者に対して、市民向け公開講座や地域・NPO 等と連携した関連イベントの開催を働きかけ、住民が MICE に参加し、交流する機会の提供に努めます。

【しくみづくり: デジタルツールの活用や財源の自立化を目指して】

課題解決のためのマーケティングにおけるデジタル技術を導入します。多様な事業者との協働創出の場づくり、持続的な事業活動を支える財源確保など、DMO による安定的な観光 MICE の推進の基盤構築を目指します。

1 独自収集データによる横浜の観光市場分析

財団が独自に収集する観光データを分析し、可視化するためダッシュボードを公開します。マーケティング分析により戦略的ターゲットを設定し、観光 MICE 振興に取り組みます。

2 デジタルマッププラットフォームの活用

令和 4 年度に導入・試行を開始したデジタルマップ(ボールドライト社製のプラチナマップ)を活用し、観光情報の発信・提供手段のデジタル化を推進します。デジタルプラットフォーム『横浜デジタル MAP』を管理・運営し、従来の印刷物の観光地図に代替するデジタルマップの導入やスタンプラリー等の回遊施策に対応したプロモーションを展開します。

3 観光戦略の具体化のための財源の確保

(1) DMO を対象とした国費の活用

政府や各省庁が DMO を対象に助成する事業について、テーマや手法、ターゲットなどが合致する事業や、DMO の機能向上につながる事業での支援を受けるため、国費を活用して事業の拡大や財団の機能強化に繋がります。

(2) 財団運営のための財源獲得

さまざまな観光資源を活用して、付加価値の高い魅力的なコンテンツを開発し商品化することにより、回遊宿泊につながる新しい観光スタイルを創り出します。

TXJ による OTA サイトを運営し、開発コンテンツの販売促進を実施します。

【誘客・誘致のためのプロモーション】

1 観光誘客

(1) ワークেশョンの推進

横浜ならではのアーバンリゾート環境を活かしたワークেশョンを新たな旅のスタイルと位置付け、旅の目的となる魅力あるコンテンツの開発と OTA サイト(TXJ)による販売促進を図ります。

(2) インバウンドの回復を目指した戦略的取組

アジア、米国等の地域に対して、個人旅行者を中心とする誘客を強化します。訪日リピーターが多く、情報発信が可能なエリア及び層を選定し、各ターゲットのニーズに対応できるコンテンツ開発を行い、訴求効果の高い手法で情報を発信します。

- ・インフルエンサーや、メディア招聘及び旅行専門誌等での記事出稿
- ・口コミサイトやホテル検索サイト等との連携

(3) クルーズ船客の前泊・後泊誘致プロモーション

横浜港を発着するクルーズ客船と連携し、乗船前後の市内宿泊プランの造成、市内観光・飲食施設等の利用促進、船内や送客地となる海外現地でのトレードショーなどでの横浜情報の発信など、クルーズ船客によるにぎわいづくりにつながる事業を展開します。

2 MICE 誘致

(1) マーケティング

国際会議等のリサーチをはじめとするマーケティングを強化します。MICE 業界団体の活動を通じて、最新動向の把握、ノウハウやスキルの獲得、人的ネットワーク構築に努めます。また、市内での開催実績を把握するため、施設や大学等の協力のもと情報収集を行います。

- ・国際会議協会(ICCA)のアソシエーションデータベースや、研究者の研究実績に関する調査データ等の分析
- ・国際会議協会(ICCA)総会参加(於:タイ・バンコク) [11月12日～15日]

(2) セールス&プロモーション

国際会議等の開催件数増加と「MICE 都市横浜」の認知度向上のため、国内外で開催される商談会・トレードショーへの出展や大学・研究機関等を対象としたセールスを実施すると同時に、国内外の主催者等に向けて WEB サイトや SNS での情報発信を行います。

(ア) 商談会等でのセールス

日本: 第 33 回国際 MICE エキスポ(IME2024) [令和 6 年 2 月 予定]

海外: IMEX(於: フランクフルト/メッセフランクフルト) [5月23日～25日]

iBTM World(於: バルセロナ/フィラ・バルセロナ・グラン・ビア)

[11月28日～11月30日]

(イ) 大学・研究機関等を対象としたセールス

- ・キーパーソンとのネットワーク強化
- ・市内主要大学での誘致支援サービス説明会開催および説明会のオンデマンド配信

(ウ) 現地参加者の増加を目指した横浜 MICE の最新情報の発信

3 横浜の魅力の発信

横浜を来訪の目的地にするために、多様なメディアとのネットワークを通じてパブリシティを強化するとともに、ウェブサイト、SNS、印刷物、観光案内所など既存の情報発信手段をそれぞれの特質と強みを生かした形で有機的に連携させ、時代の変化に即した効果的な情報発信を行います。

- ・ウェブサイト、SNS による情報発信の充実
- ・現地参加者の増加を目指した横浜 MICE の最新情報の発信[再掲]
- ・観光案内所の運営(横浜駅、桜木町駅、新横浜駅)

【賛助会員事業】

1 賛助会員交流機会の充実

【参考】会員数 596 事業者(令和 5 年 2 月 28 日)

会合種別	開催時期(予定)	具体的内容
令和 5 年度事業概要発表会 及び 賛助会員交流会	4 月 28 日	財団の令和 5 年度の事業計画、重点取組等の 説明会及び交流会
若手・新入職員向け横浜観光 研修	9 月	賛助会員の若手・新入職員を対象とした市内施 設視察、グループディスカッション、チームビルデ ィング等
新規賛助会員向け事業説明 会・交流会	年 2 回 9 月 R6 年 2 月	新規入会賛助会員による自社 PR、既存会員との 交流会
会員の集い;講演会、優良従事 者表彰及び賛助会員交流会	11 月中下旬	賛助会員への謝意を表す機会として、永年に亘り 観光及び MICE の振興に功績のある方の 表彰 及び講演会、交流会
横浜観光 MICE フォーラム (仮称)	年 3 回 7 月、11 月 R6 年 3 月	財団事業と連動した観光 MICE に関するテーマ でのフォーラム または賛助会員のビジネスチャ ンスにつながる情報提供機会